

矢崎科学技術振興記念財団 業で援助している。

(尾崎護理理事長)は平成28年度の「研究助成金」受領者15人、「国際交流援助」受領者17人、「特定研究助成金」受領者1人、「矢崎学術賞」1人を決定した。

同財団は昭和58年以来、科学技術の発展を目的として「研究助成」事業を行っており、28年度も「新材料」「エネルギー」「情報」の3分野を対象領域とし、研究の独創性に重点を置いて助成対象の研究が選考された。「一般研究助成」(助成金200万円)と、とくに若手研究者を対象とした「奨励研究助成」(同100万円)、ローチによる金属含有カーボン材料創成、清水美智子京都工芸繊維大学戦略推進機構系グローバルエクセレンス助教の研究「セルロースナノファイバー複合化水処理膜の創製」を含む計10件が決定された。

今年「一般研究助成」には81件の応募があり、審査の結果、稲垣怜史横浜国立大学大学院工学研究機関の創生部門准教授の研究「リチウム・硫黄二次電池の高容量化のための多孔質炭素電極の調製」をはじめ5件に決定した。「奨励研究助成」は48件の応募のなかから、酒田陽子奈良大学理工研究域物質化学系助教の研究「錯体化学的アプローチによる多機能性有機材料の創製」が決定された。

28年度助成対象決まる

矢崎科学技術振興記念財団

「特定研究助成」は、同財団が特定したテーマ、領域a、生物の機能や構造を情報伝達、自己修復、環境適応、材料創成などの新機能創生に活用して従来にはない人工物を実現する研究」及び、領域b、扱いにくい熱を変換、輸送、貯蔵し

「特定研究助成」は、同財団が特定したテーマ、領域a、生物の機能や構造を情報伝達、自己修復、環境適応、材料創成などの新機能創生に活用して従来にはない人工物を実現する研究」及び、領域b、扱いにくい熱を変換、輸送、貯蔵し



助成金贈呈式のもよう

て有効に活用する技術」に計21件の応募があった。厳正な審査の結果、今年度は領域bから、土屋智由京都大学大学院工学研究科マイクロエレクトロニクス専攻の研究「真空ナノギャップを用いた常温熱電子発電・冷却デバイス」に決定された。

また、過去に同財団から研究助成を受けた研究者のなかから、優れた成果をあげた研究者に贈った。

また、「国際交流援助」は、昨年度より4人多い17人の受領者となった。